

## 2008 年秋の学術講演会企画に当たって

応用物理学会講演会企画運営委員長

鈴木 実

中部大学で開催される 2008 年秋季第 69 回応用物理学会学術講演会では、一般講演 3,327 題、29 テーマのシンポジウムなどの招待講演を含むと 3,902 題の発表が、42 の口頭講演会場と三浦幸平メモリアルホールおよびポスター講演会場(体育館)で行われます。今年の春季講演会から、放射線・プラズマが放射線とプラズマエレクトロニクスに分離し、新たにスピントロニクス・マグネティックスの分科が合同セッションから大分類分科に昇格しました。これにより合計 17 の大分類分科と 3 つの合同セッションで一般講演が行われます。半導体、光、量子エレクトロニクス、超伝導、有機分子・バイオエレクトロニクス、薄膜・表面、結晶工学、量子エレクトロニクス、放射線、プラズマエレクトロニクス、など、応用物理学に関連する多くの分科で新しい先端的な研究成果の発表がなされる予定です。

最近の応用物理学会の講演会では参加者がこれまでになく増える傾向にあります。その理由として、優れた一般講演に加えて、シンポジウムなどでの魅力的な招待講演が企画されていることが挙げられます。こんどの講演会でも 応用物理学会論文賞、プラズマエレクトロニクス賞、有機分子・バイオエレクトロニクス分科会論文賞・奨励賞などの受賞記念講演や、講演奨励賞受賞記念講演や分科内招待講演、アジアからの招待講演などの他、各シンポジウムで招待講演が行われます。特に、講演会企画運営委員会の企画による特別シンポジウムでは、「窒化物半導体高輝度発光デバイス研究の現状とインパクト」というテーマで、高輝度青色発光ダイオードの発明と研究開発に直接関わった第一人者による招待講演が行われます。この発明と開発は、応用物理学会の講演会を舞台にしてなされたと言っても過言ではありません。応用物理学会の誇りと言うべき発明と開発の息吹と精神を講演から感じ取っていただければ幸いです。また、最近発見されて転移温度が上昇し続けている鉄系新高温超伝導体に関する特別セッションが設けられ、最新の研究成果が報告されます。その他にも、JST との共同企画による医工連携関連シンポジウムがあります。新たな研究シーズの探索とイノベーションの創出に有益な情報が提供される予定です。

人材育成・男女共同参画委員会、刊行委員会、JJAP 編集運営委員会共同企画シンポジウム「学会における若手人材育成 - 応物があなたのキャリアデザインを応援します -」では論文やプロポーザルの書き方などキャリア形成のためのチュートリアルを行います。また、応用物理学会スクール「省エネルギー・低環境負荷技術の最前線と将来展望」を開催します。今後、地球環境保全のために否応なく要求されるこの省エネルギー関係技術について現状と将来展望が議論されます。

ポスターセッション会場および展示会会場にはこの講演会から初めて空調機が導入されます。これまで秋季講演会のポスター講演は文字通り大変暑い議論がなされておりましたが、それが大いに改善される予定です。さらに、キャリア支援のための求人側企業による「博士のキャリア相談会」ブースが開設されます。また、展示業者による製品説明ブース(ワークショップ)も実施の予定です。講演会場では、液晶プロジェクターによる PC プレゼンテーションに加え、スポット広告などが試行されます。託児室の設置も継続しますので、あらゆる参加者にとって有意義で楽しく充実した学術講演会になるよう願っております。

最後になりましたが、講演会場をご提供いただいた中部大学、ならびに現地実行委員としてご協力頂いた関係者の先生方に深く感謝いたします。